

第一章 旧石器時代

1 日向遺跡 ひなた 本遺跡は、箱根外輪山の三國山から南西に延びた尾

根末端部の、裾野市公文名日向に位置し、海拔一七七・九五mの丘陵上に立地する。同じ丘陵上の南西に続いて天神山・屯屋敷遺跡、北東に丸山II遺跡がある。昭和二五年(一九五〇)、県立沼津商業高等学校の郷土研究部員鈴木恒治が踏査し、縄文時代早期土器片を採集している。

その後、小野真一、笹津海祥、瀬川裕市郎らが踏査して、縄文時代早期遺跡として注目していた。本遺跡採集の石器のなかに、黒曜石製のナイフ形石器と頁岩製の石刃があったが、昭和四八年(一九七三)、裾野市立東中学校建設に伴って発掘調査が実施された結果、畑の耕作その他によって土層の攪乱が著しく、旧石器時代の遺跡としての確認はされていない。

2 丸山II遺跡 まるやま 裾野市公文丸山に位置する遺跡で、海拔一九〇mの丘陵の頂部にある。昭和二五年(一九五〇)頃、鈴木恒治によって踏査され、ついで昭和三〇年(一九五五)から三四年(一九五九)にかけて、小野真一が表面採集をおこない、縄文時代早期の遺物を含む遺跡とされた。昭和四五年(一九七〇)、県立沼津東高等学校郷土研究部と、同四七年(一九七二)に持田信幸が、縄文時代の遺物が出土する黒褐色土層の下の、休揚層といわれる黄褐色のローム層から黒曜石と頁岩製のナイフ形石器及び石刃状の剥片を採集して、旧石器時代の遺跡としてよいのではないかとされた。翌四八年(一九七三)、裾野市立東中学校建設のため、事前の発掘調査が実施されたが、旧石器時代の遺跡としての確認はされていない。

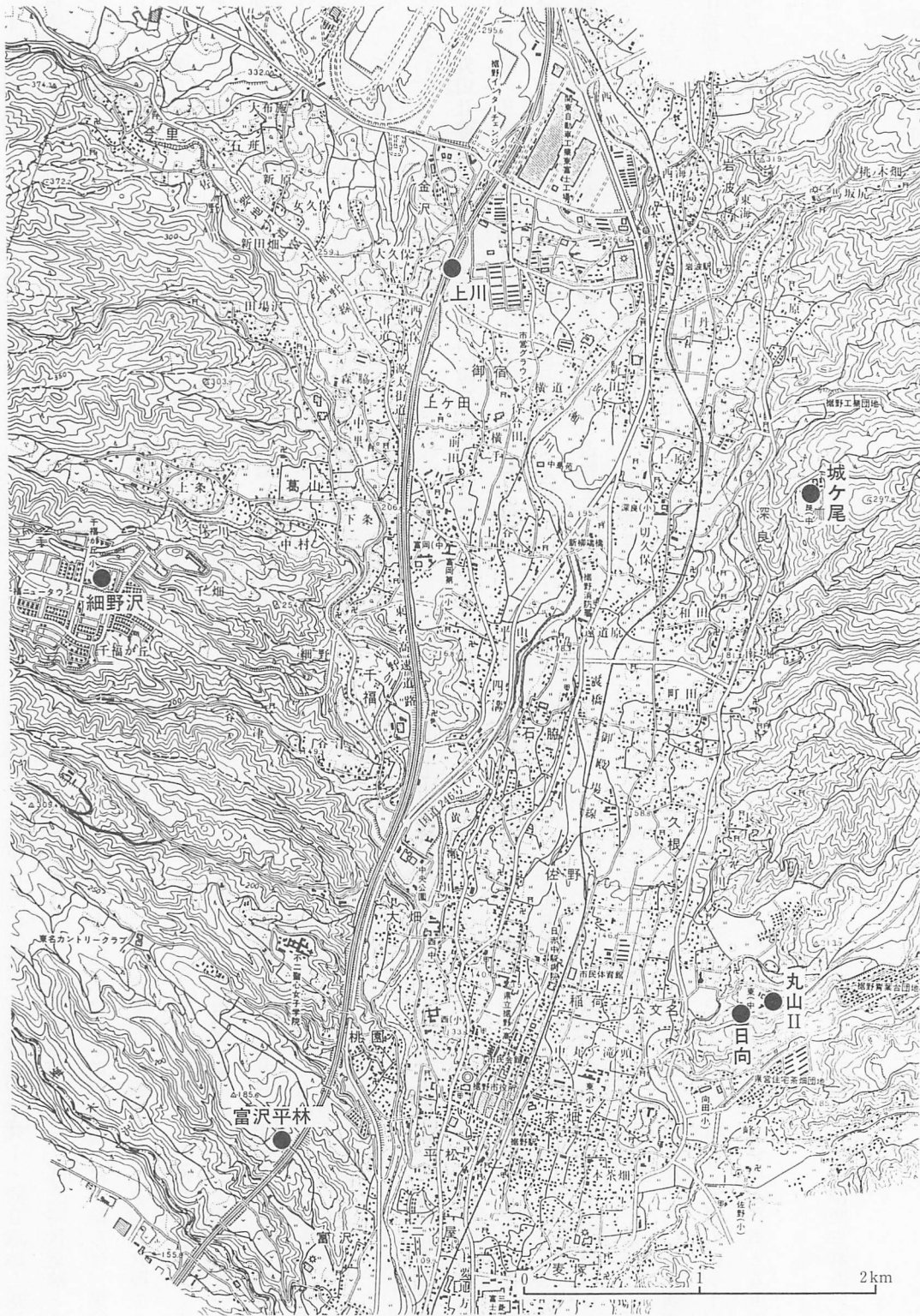
3 富沢平林遺跡 とみざわひらばやし 裾野市富沢平林遺跡は、富沢集落南西の丘陵

上の海拔二二〇m付近に位置する遺跡で、平林I・同II遺跡と連続している。昭和四〇年代に、芹沢充寛らが踏査し、縄文時代遺跡とされてきた。その後、昭和五〇年代の後半に渡瀬治、袴田稔らは、黒曜石製の尖頭器を採集している。本遺跡は、縄文時代の遺物包含層である黒褐色土層が削平され、その下部の黄褐色ローム層が畑の作土となり、そこから採集したもので、旧石器時代遺跡の存在が予想されている。

4 尾畑遺跡 おぼた 裾野市桃園尾畑の舌状丘陵上の海拔一五〇mのところに位置する。昭和一〇年(一九三五)頃から縄文時代遺跡として知られていたが、昭和四二年(一九六七)住宅地造成のため消滅した。有舌尖頭器が採集されている。

5 上川遺跡 かみかわ 裾野市金沢上川の馬背状丘陵の海拔二七〇m付近に位置する。昭和三一年(一九五六)、県立沼津商業高等学校郷土研究部によって踏査され、縄文時代遺跡とされてきた。昭和四二年(一九六七)、東名高速道路建設のため発掘調査され、ついで昭和六〇年(一九八五)、裾野インターチェンジ建設のため発掘調査が実施された。出土遺物のなかに頁岩と安山岩製のナイフ形石器、石刃状剥片、細石刃、黒曜石、頁岩、珪質頁岩、安山岩などで作った尖頭器等が検出され、六〇年の調査の時に旧石器時代遺物包含層確認のため、三カ所ほど地層の掘り下げを実施したが、検出できなかった。本遺跡の大部分は道路敷となり消滅した。

これら各遺跡の詳細については、縄文時代の項を参照されたい。



裾野市内旧石器出土・採集遺跡

## 裾野の旧石器時代遺跡

厳密な意味で裾野では、旧石器時代遺跡は未発見である。ここで未発見としたのは、幾重にも堆積する層準の中の、どの層準に旧石器時代の石器類が含まれているかが、明らかになっていないという意味である。隣の長泉町や沼津市、三島市や函南町では、二〇〇カ所を優に超える遺跡が発見されているので、近い将来裾野市でもその辺りが明確になるに違いないが、現状では未確認ということである。しかし、層準の確認はないが、明らかに旧石器時代の石器と考えられるものは、何点か確認されている。ここではそれらの石器を頼りに、裾野の旧石器時代を紹介することにする。

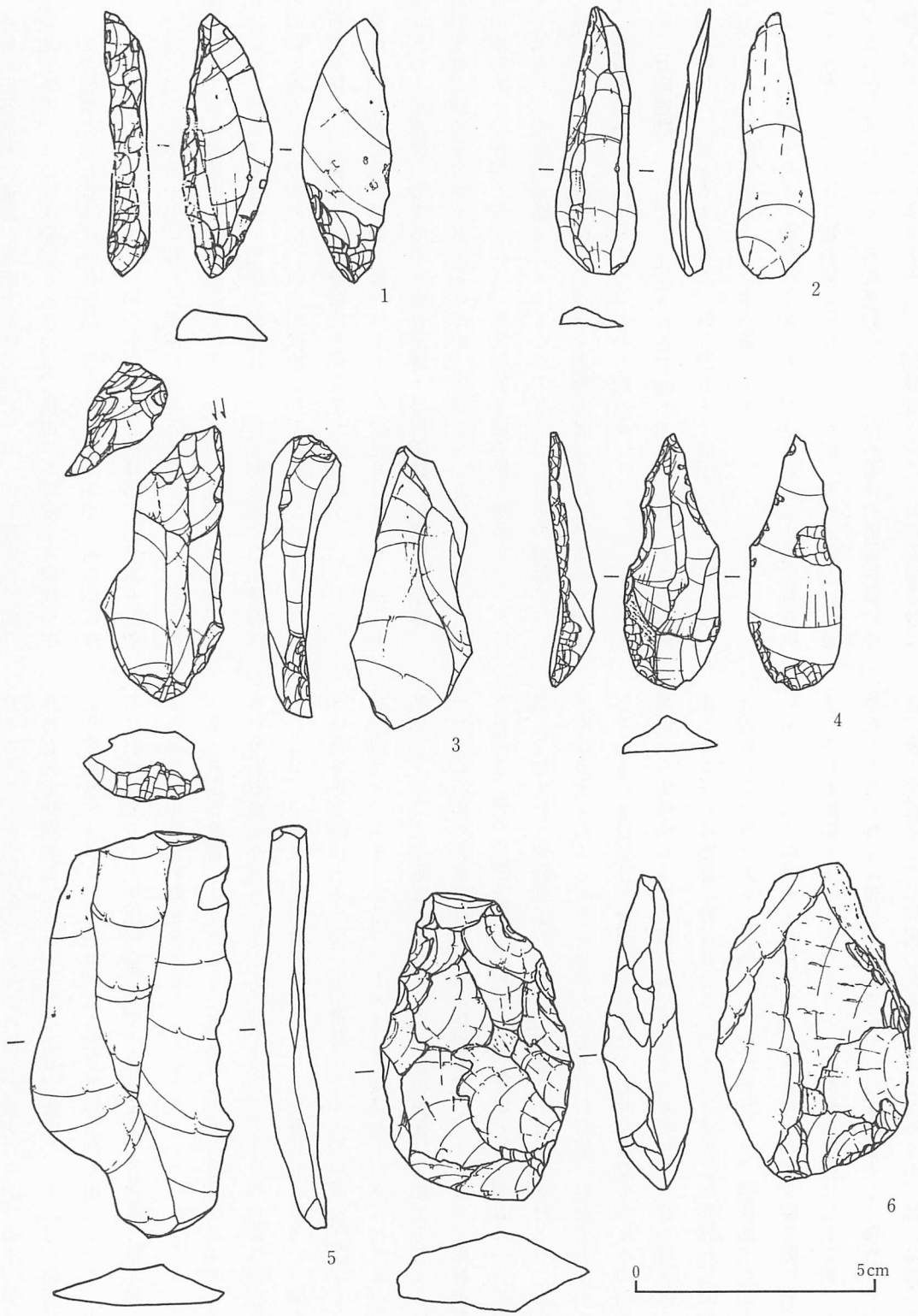
裾野で旧石器時代の石器と思われるものが発見されているのは、市内金沢の上川遺跡、公文名の丸山Ⅱ遺跡・日向遺跡、桃園尾畑遺跡、富沢平林遺跡の五カ所が数えられるが、舌状のつくり出しを持った有舌尖頭器もその仲間と考えれば、深良の城ヶ尾遺跡、東急ニュータウンの造られた細野沢遺跡も加えることができる。これらの遺跡については、それぞれから縄文時代の遺構や遺物も発見されているので、まず、石器を遺跡ごとに紹介することから始める。

1 日向遺跡 「日向」と注記された石器が四点みられ、それぞれが旧石器時代の石器と考えられた。第3図5〜7に示したものがその一部で、ともに黒曜石製のナイフ形石器である。

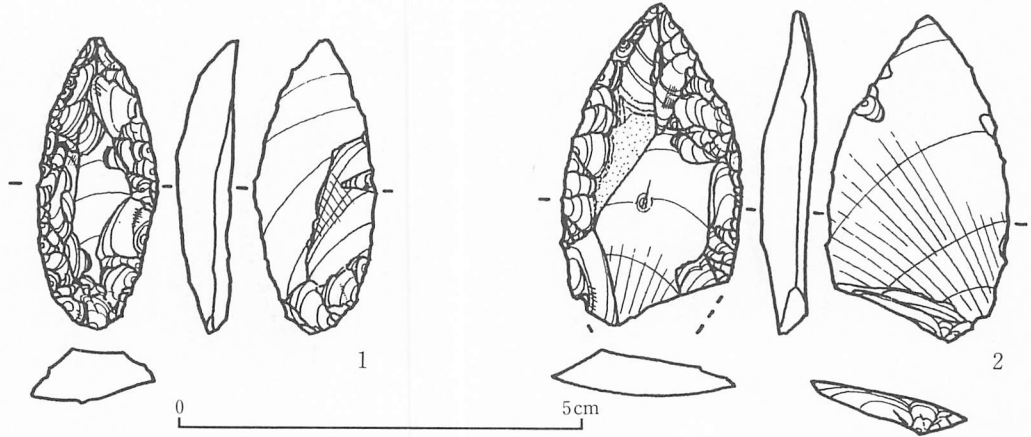
ナイフ形石器とはその形状や予想される用途から、主として現在の小刀を連想して、ナイフ形石器と呼ばれているが、その一辺上には通常刃部が設けられている。日向遺跡のナイフ形石器は石器の両縁にまで加工が加えられていることから、二側縁加工のナイフ形石器と呼ば

れるもので、一方が右刃であるのに対して他方は左刃である。第3図5は石片を切断するように加工しており、先端の一方には、裏面にも石片を横断するように平坦な加工を加え基部を作り出している。大きさは4cmを測り、上川遺跡(第4図1〜4)と丸山Ⅱ遺跡(第1図1・2・4)の中間位の数値を示す。

2 丸山Ⅱ遺跡 ここからも一五点以上の旧石器時代のものと考えられる石器類が発見されている(第1図)。ナイフ形石器は四点を画示したが、いずれも上川遺跡のものよりは大型のものが多く、第1図3は長さが5cm以上あって、上川遺跡のナイフ形石器(第4図1〜5)の二倍ほどの大きさを持つ。1・4は二側縁加工の施されたもので、基部とすることを意識してか、一部石器の裏側にも加工を加えている。それぞれ石器の正面には、二条の稜線を残し、よくみると素材となった石片を、斜めに断ち切っている(切断技法)。2は側縁の一方にのみ加工を加えた一側縁加工のナイフ形石器であるが、素材となった石片をあまり変えることもなく整形しており、打撃痕の痕跡をわずかに残している。3は石片の分厚い先端部に、石片と直交するように石片の裏側から表に向かって大胆な加工を加えたもので、生皮を鞣す際に利用したとされる搔器と呼ばれるものである。またこの石器は反対側の先端もかなり厚いがその角から二度にわたって、樋状加工を加えている。これはこの部分を利用して、木や骨などに溝を彫る際に利用するとされる彫器とするためである。この彫器の樋状の加工を切って、搔器の刃部の加工が施されているので、まず彫器として製作した石器を、後に搔器としても利用したということだろうか。他には整った形



第1图 丸山II遺跡採集石器実測図



第2図 富沢平林遺跡採集石器実測図

状をした石片で、石刃

(状)と呼ばれるもの

がある。両側の鋭い部

分を利用して、そこを

刃部とした石器である

う。打面部を残す頁岩

製である。第1図5は

不定形な石片で、その

一縁にわずかな加工痕

状の痕跡を残す。これ

は石器として使用した

際の痕跡かも知れず、

使用痕ある剥片と分類

される。特に図示はし

ないが、石刃(状)と

考えられる石器が他に

三、四点発見されてい

る。

### 3 富沢平林遺跡

黒曜石製の尖頭器二点

が確認されている。尖

頭器とは小形の石器で、

槍などの先端につけ、

獣などをしとめる際に利用したとされている。一方は長さ四cm、幅

二・三cm、厚さ〇・四cmと薄く、偏平で基部の一部を欠くが下膨れの

する木葉形に近い形態となっている。平坦な加工は石器の正面に加え

られているのみで、裏面には加工の痕跡はみえない。折れ口をみると

調整の加えられた痕跡がみえ、もしかしたらこれで完成された石器で

あった可能性もある。他方は長さが三・六cmとやや小さ目であるが、

最大厚さが〇・七cmと前者より分厚い感じを受ける。最大幅は中央で

一・五cmと、やや細目である。両面に加工が施されている(第2図)。

### 4 尾畑遺跡

黒曜石製のナイフ形石器二点と削器一点(第3図1

と3)と有舌尖頭器一点が発見されている。ナイフ形石器はそれぞれ

四・一cmと四・五cmほどの長さを有し、最も幅広いところで一・五cm

を測る。ともに二側縁加工が施されており、縦長剥片の一端を切り落

としている。したがって、打点は切りとられ素材の原形を大きく変え

ている。第3図1は左上に刃部をもつ、台形状を呈するナイフ形石器

である。

削器はナイフ形石器よりやや横幅の広い素材によってつくられている

る。右下方向に片寄った剥片の先端部に、わずかな加工痕を残し、そ

こを刃部としたようである。打点をわずかに残す縦長剥片が素材とな

っている。

### 5 上川遺跡

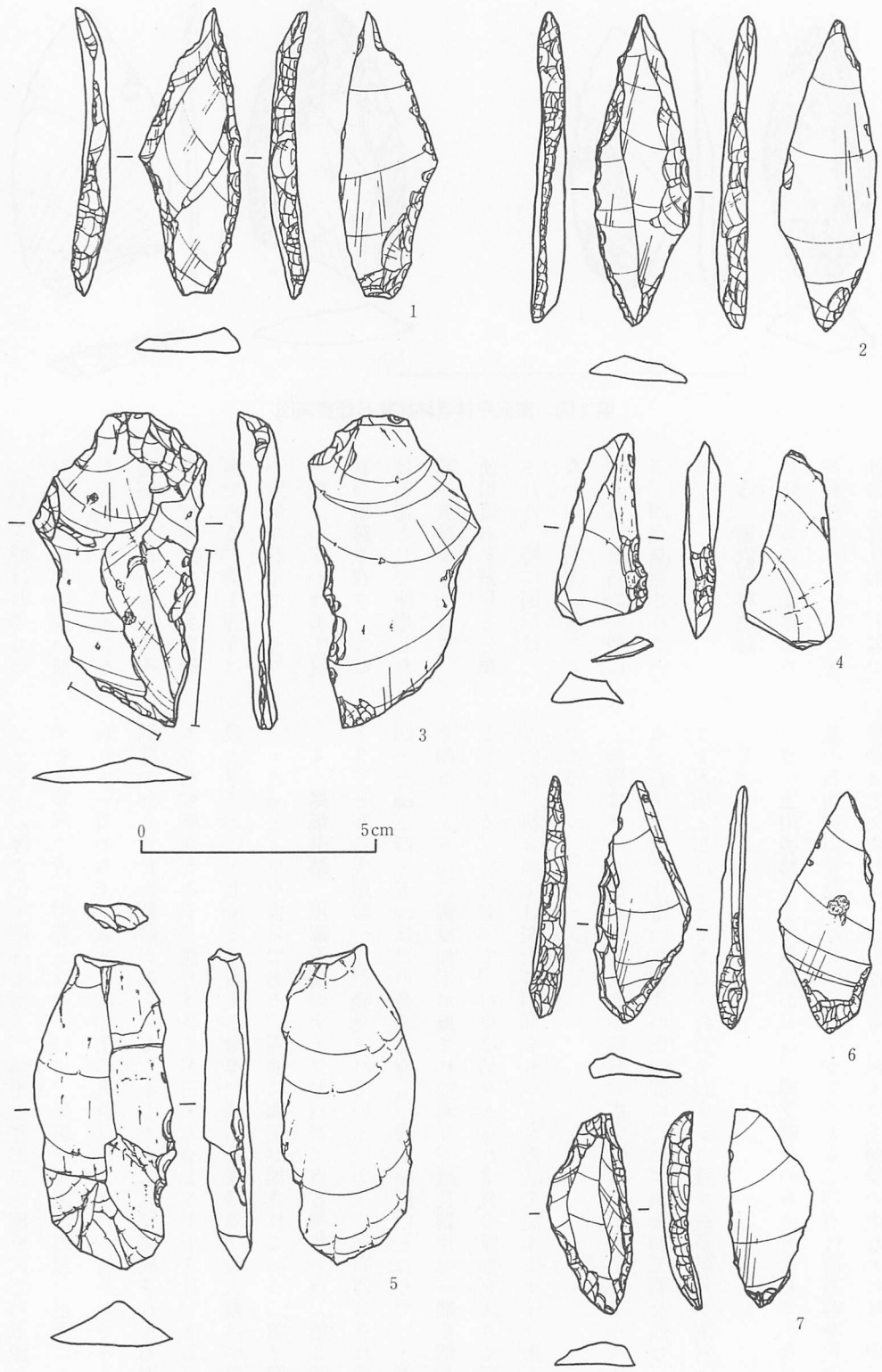
上川遺跡からは、縄文時代のものも含めてかなりの

量の石器類が発見されているが、少なくとも二四点は旧石器時代の石

器類と考えられる。この他にも、例えば尖頭器の中などには、旧石器

時代のものではないかと疑えるものも二、三あるが、断定できないで





第3図 市内採集石器実測図(1~3尾畑遺跡, 4丸山I遺跡, 5~7日向遺跡)

いる。

ナイフ形石器 第4図1と5・7は石器の両縁にまで、加工が加えられた二側縁加工のナイフ形石器で、図の例では長さが二・五cm前後で、ナイフ形石器の中では小形に属する。7の例は長さが四cm以上と考えられ、通常はこの位の大きさはある。図中で加工の施されていない縁辺部は、鋭利な刃部となっている。よくみるとその刃部の大きなものや小さなもの、角度が鋭角のものや鈍角のもの、刃部が右側につけられたものや左側につけられたものなどさまざまであるが、刃部の位置や大きさ、角度さらには石器自体の大きさなどが、何を意味しているかは明らかでない。あるいはそれぞれ用途に違いがあったのかも知れない。鋭く尖った先端部と鋭利な刃部が、この石器の用途に大きく係わったことには間違いなさそうである。全部で九点確認できたが、七点が黒曜石で安山岩と珪質頁岩一点ずつを石材としている。これらの内、安山岩以外は愛鷹山には産しない石材で、他地域の石材である。安山岩といっても愛鷹山のものとは異なるようである。何も上川遺跡だけのことではないが、沼津市、長泉町にまたがるこの地域の旧石器時代の石材は、そのほとんどが他地域のものを利用している。

削器 石塊から打ち剥された石片には、鋭い縁辺部が残される場合が多い。その縁辺部を利用したり、時にはその縁辺部に細かな加工を施し、それらを刃部として利用した石器を削器と呼んでいるが、ナイフ形石器と区別しにくいものもある。削器の用途としてはものを切ったり、あるいは削ったりするものと考えられているが、その点からしてもナイフ形石器とは区分しにくいものもある。

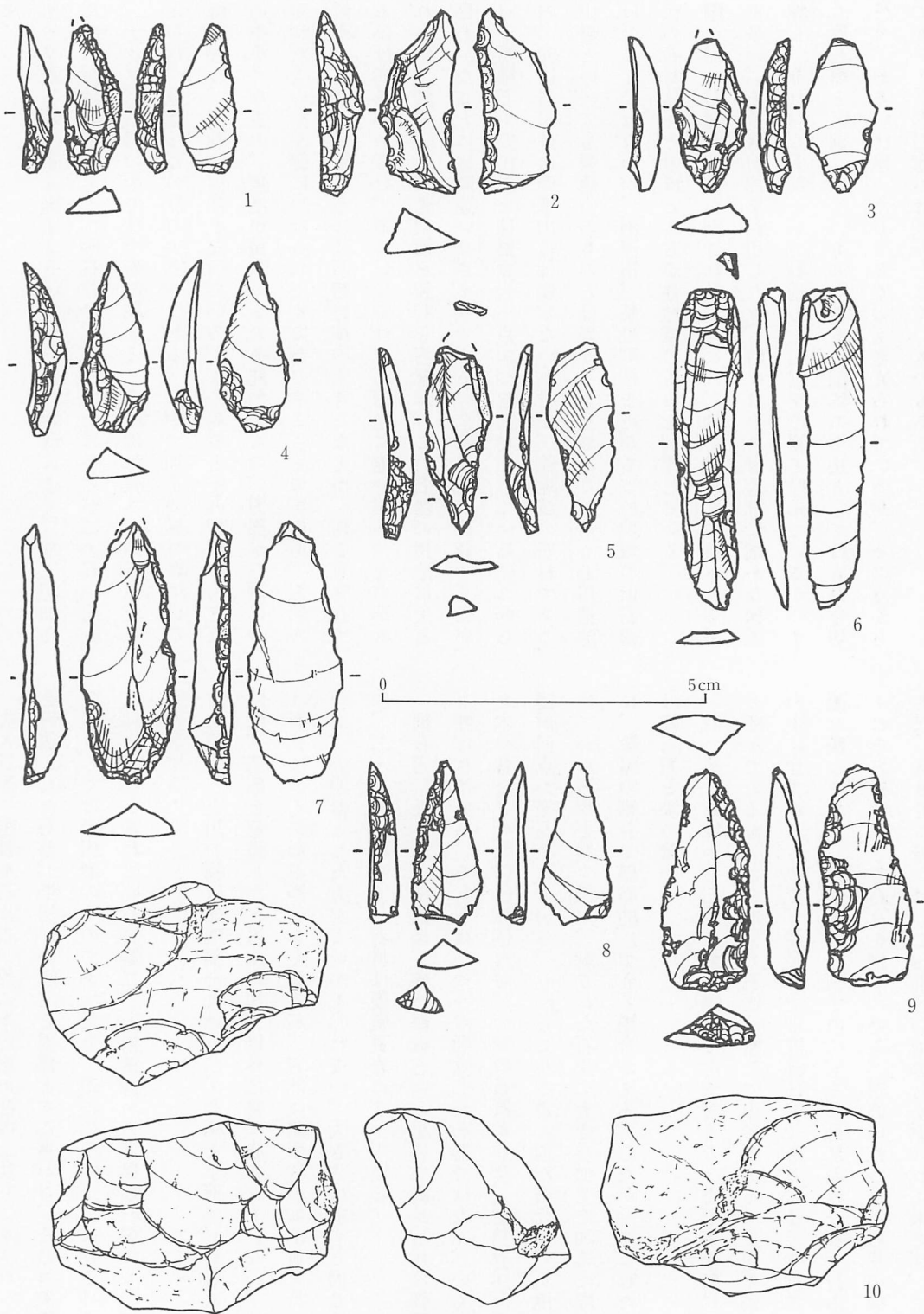
挿入石器 削器や石片の一部に半円形の凹み(抉り)を入れ、そこを刃部とした石器。半円形の凹みを刃部とする事から、その対象物も円形もしくは半円形のものであったり、時にはそのように仕上げる際に利用するとされている石器で、上川遺跡からは黒曜石製のものが一点発見できた。

尖頭器 上川の例は先端部を欠いた二・七cmと小形で、石器の裏側には、基部を意識したと思える加工以外は特に施されていない。他には形状はナイフ形石器によく似るが、刃部に鋸歯状の加工痕を持つもので、尖頭器とした方がよいかもされない。大きさは前者と同じように、二・七cmと小さく、石材は硬質頁岩によっている。

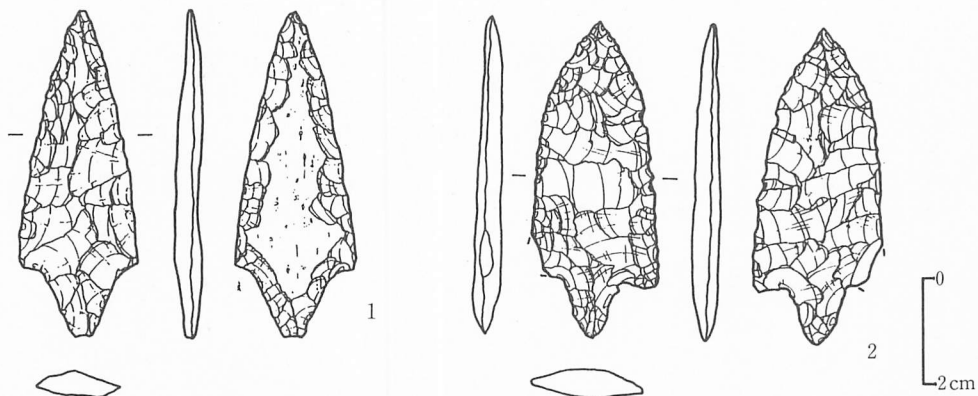
細石刃 長さが二cm前後、幅が数mmという小さな縦長石片は細石刃と呼ばれている。それらは一つ一つ独立した石器ではなく、いくつかを木や骨などの軸にはめ込んで、一つの石器とした、細石刃(状)の石器が何点か発見されている。しかしこれとよく似た石片は、石塊(石核)から石片を剥す際や、剥された石片に大きな加工を加えた際に、数%の割合で偶発的にできる場合がある。したがってこれだけでは細石刃と決め難い。

石核 石塊から石片を剥す際、その素材となった石塊を特に石核と呼んでいるが、この地域の石核は概して小形である。上川の例もその中に含まれるもので、最長部では五cmほどである。多くの面に自然面を残しており、石片を打ち剥すのに、まず自然面の一部を打ち剥し、それを打撃点として石片を剥している。石核に残された石片の痕跡からは、大きさもせいぜい二cm前後のものしか剥されておらず、これに





第4图 上川遺跡出土石器実測図



第5図 市内出土有舌尖頭器実測図(1尾畑遺跡, 2細野沢遺跡)

対応する石器は見られそう  
にない(第4図10)。

以上、上川遺跡の旧石器  
の概略を紹介したが、これ  
らがすべて同一の時期のも  
のであるか否かは明らかで  
ない。

**有舌尖頭器**

裾野市から

は三点の有舌尖頭器が確認  
できた(第5図)。尾畑遺  
跡、細野沢遺跡、城ヶ尾遺  
跡からの三点であるが、そ  
れぞれチャート、頁岩、安  
山岩と材質を異にしている。  
大きさでは尾畑遺跡と細野  
沢遺跡のものが、長さ五cm  
幅二cm強、厚さ四mm前後と  
共通しているが、城ヶ尾遺  
跡のものはやや大きめであ  
る。尾畑遺跡と細野沢遺跡  
の有舌尖頭器の舌部は、そ  
れぞれ一cmほど作り出して  
いるが、石器の製法は少し

異なっている。尾畑(第5図1)の例では素材の石片を貫通するよう  
な平坦な加工や、素材の中央部でそれぞれ加工が接するような割合整  
った加工を施しているが、一方の細野沢(第5図2)では周辺部の細  
かな加工で、全体の形状を整えようとしているようである。さらに舌  
部の作り出しも尾畑の例は逆刺かきりのように下方に突出しているが、細野  
沢ではそれが上方へ開き加減となっており、下膨れのした木葉形を連  
想させる形状となっている。これと違って城ヶ尾遺跡の例は、細目の  
やや大型の有舌尖頭器で、斜めの流麗な平坦加工を整えている。

**周辺地域からみた旧石器の移り変わり**

旧石器時代の石器が発見さ

れる層準は、愛鷹上部ローム層と呼ばれる、主として古期富士火山を  
供給源とする火山灰からなる層準である。それは通常は二〜三mの層  
厚を持つが、放射性炭素( $C^{14}$ )による年代測定では、およそ今から一  
〇〇〇〇年以前〜三〇〇〇〇年前という値が出されている。そしてそ  
こには色合いや含有鉱物の違いから二〇層以上の土層が、火山灰と黒  
色の腐食土層の互層となって確認されている。その二〇層を超える土  
層の一二層の腐食土層から、それぞれ石器群が発見されているが、愛  
鷹上部ローム層の最下位の腐食土層では、まだ石器は確認されていな  
い。そして石器類の発見される層準は、およそ一四〇〇〇年前とされ  
る最上部のYL層(休場層)、BBO層(休場層下部黒色帯)、BBI  
層(第一黒色帯)、NL層(ニセローム層)、BBII層・BBIII層(第  
二・第三黒色帯)〜BBVII層(第七黒色帯)までとらえられており、  
BBIII層とBBIV層との間のスコリア層に挟まれたSCIIIb1層と

b b 2層とが加えられる。このうち最下層のB B VII層を除いて、それぞれの層準からいろいろに組み合わせられた石器群が確認されている。

(それぞれの層準の年代については「愛鷹山麓土層模式柱状図」参照)

先にも触れた樞野市域では、旧石器の層準が未確認であるので、沼津市や長泉町など周辺地域の遺跡の情報を通して、この地域の石器群の移り変わりを、それぞれの層準を通して概観すると、以下のような

まず最初に現れる石器は、主としてものを切ったり削ったり、時には突き刺す機能も持ったであろう、台形様石器と呼ばれる、5 cm前後の先端部を刃とした、台形状の石器である。それは骨など砕く際に、楔のように使用したとされる楔形石器(ピエス・エスキュー)や石器などを軸にはめ込む際に溝彫りに使われたとされる彫器、骨を割った

り、時には樹木なども倒したかもしれない石器の一部を磨いた局部磨製石斧と、削器、搔器、抉入石器なども一緒に発見される。さらにこの段階からナイフ形石器の祖形でないかと思われるものも確認されている。石器の作り方はよく判らないが、石片をいくつかに分割する方法はよく見られる。<sup>C<sup>14</sup></sup>による年代測定によれば、この段階は二八〇〇〇年以上前ということになる。

二〇層以上の層準の中であって、第三スコリア層と呼ばれる層準の中にはスコップやツルハシではとても太刀打ちできないほど堅い層準があり、それを基準に区分けすると、この二八〇〇〇年以上前のものとした石器群は、この地域の第一段階の石器群ということができ、この段階から既に完成された石器も何点か見られるといえる。

この段階をすぎるとナイフ形石器の種類も増え、なかには小形のナイフ形石器も見られるようになる。また、形の整った石片を意識的に連続して打ち剥す技術も、この頃わずかながら確認できる。しかし、最初の段階に造られた台形様石器はここでは既に見られないようである。さらに次の段階へ進むと、尖頭状の石器や尖頭器も含まれるようになり、尖頭器状の石器の中には角錐状石器と呼ばれる、断面が三角形の稜部に急峻な加工を加えたものも存在する。この石器はかなり特徴的な石器で、他地域との比較の際に役立つ。他地域との比較といえ

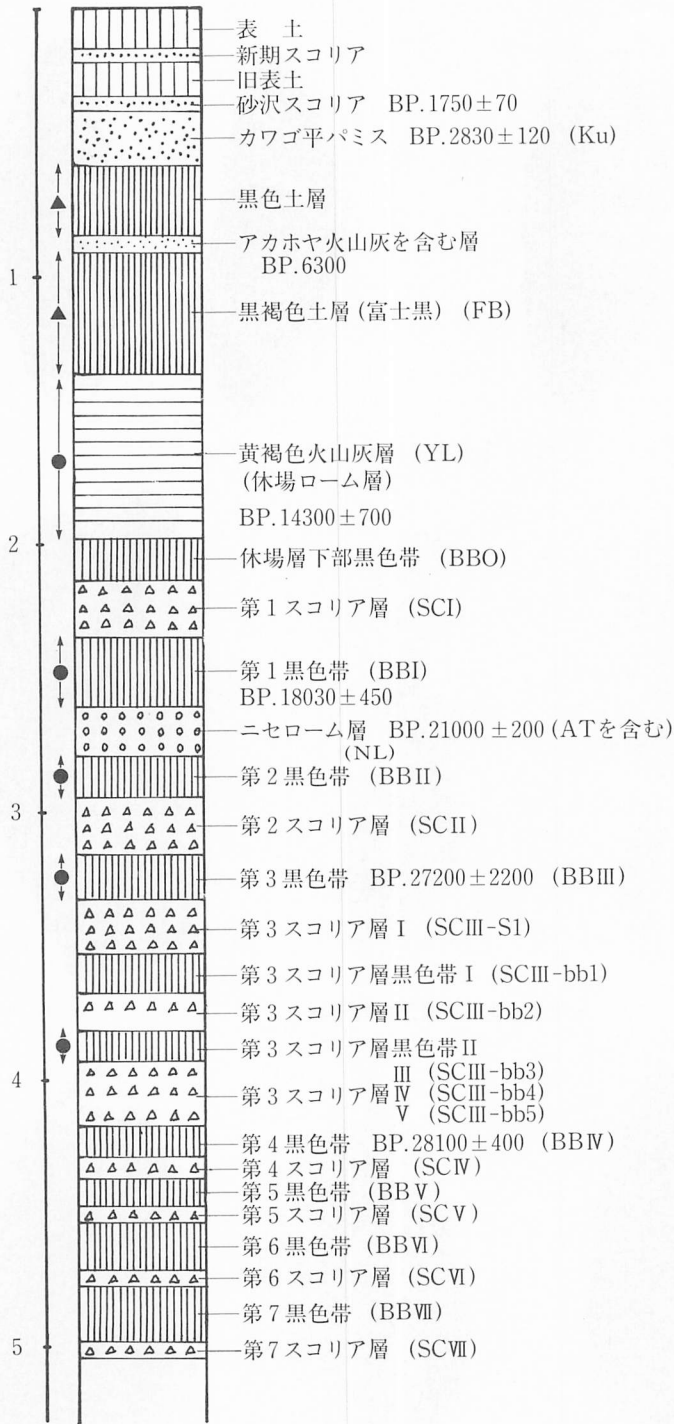
ば、この石器の出現する少し前、<sup>C<sup>14</sup></sup>の年代では二一〇〇〇年ほど前に鹿兒島の始良火山灰あいらがほぼ全国一円に降下し、そこには特殊な火山ガラスが含まれており、識別も割合容易である。それを頼りに各地の石器群を同じ時間幅で理解できるようになった。

愛鷹上部ローム層の最上部になると、石器の種類も増え、ほとんどの石器が登場する。しかし総じて石核の量が少なく、この地域で石片を剥すという作業、それも大きな石片を剥す作業は、あまり顕著でなかったようである。

石器群の含まれる層準が未確認な樞野の旧石器は、多分この最上部のY L層に含まれるはずであるが、中には時間の異なる可能性のあるものも見られ、なお流動的である。

さらに決定的なことは、この地域の石材の利用のされ方は、かなり特徴的であるということがあげられる。すなわち、愛鷹山の石材はまったくといってよいほど、石器には利用されていないということである。初期の段階には箱根や伊豆、さらには信州の黒曜石の使われる例

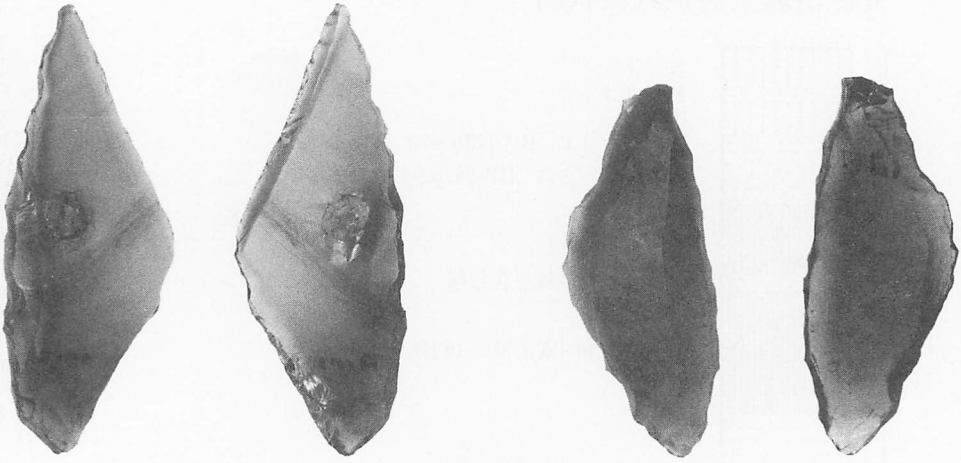
愛鷹山麓土層模式柱状図



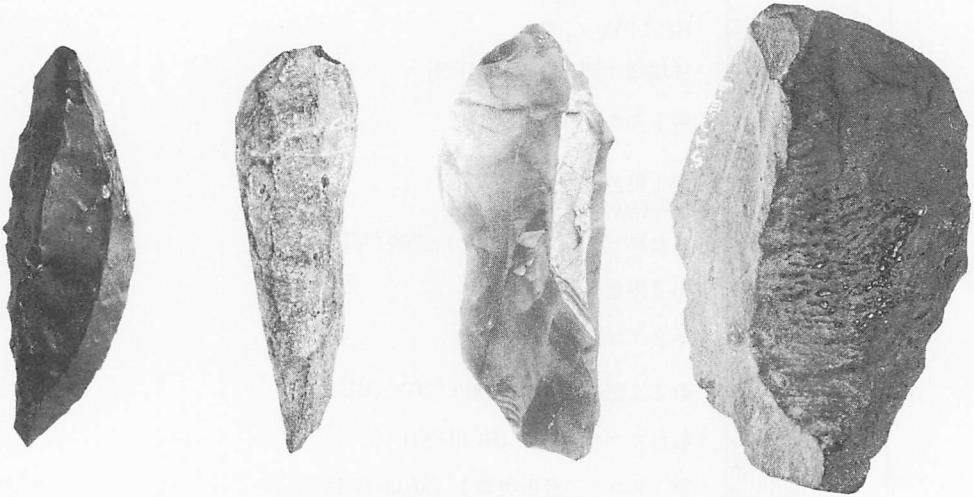
土層深さは地点によって異なる

- ▲ 縄文時代遺物・遺構
- 旧石器時代遺物・遺構

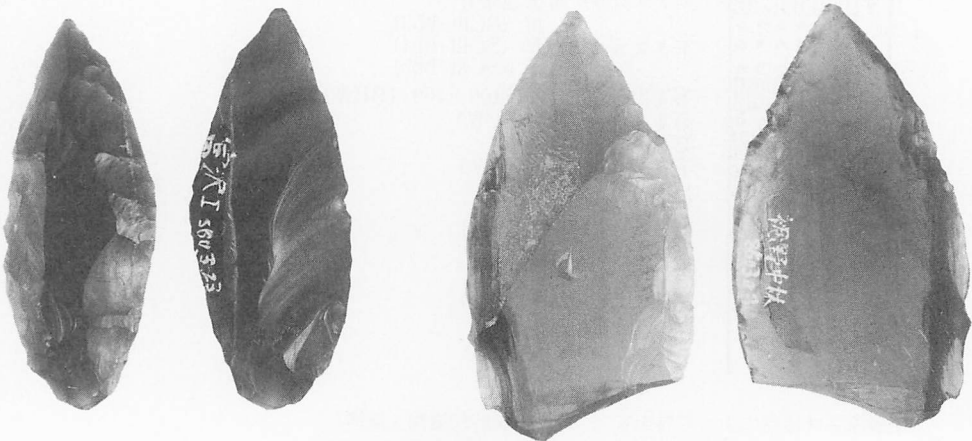
もあるが、その後はこれらの黒曜石はあまり利用されず、どちらかといえば信州や神津島の石材が増えてくる。



图版 1 日向遺跡採集石器



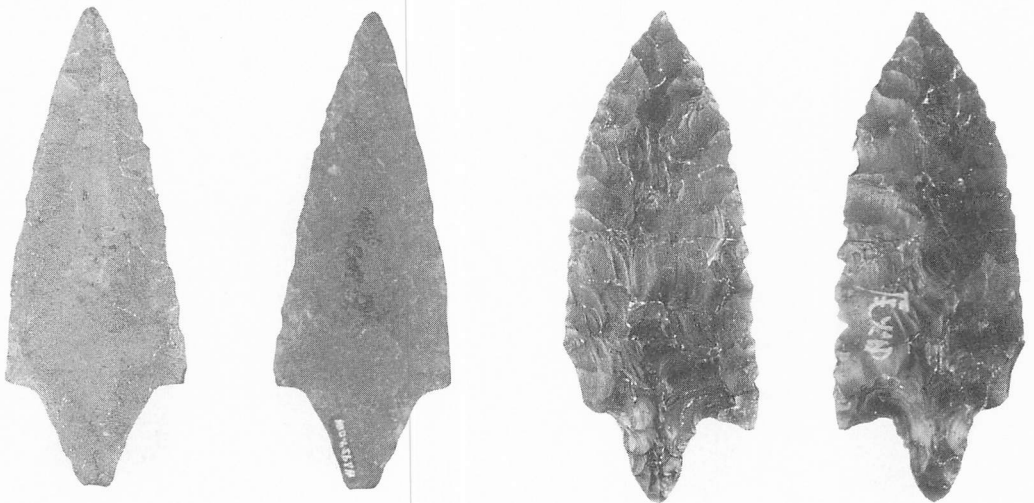
图版 2 丸山II遺跡採集石器



图版 3 富沢平林遺跡採集石器



图版 4 尾畑遺跡採集石器



图版 5 市内出土有舌尖頭器





图版 6 上川遺跡出土石器